

## 論文「ナイン」の構造論文集

「ナイン」は「変化したもの」と「変化しないもの」はたくさん出ているが、この物語の中心となっている最も変化したもの

の代表は正太郎であり、全く変化しないものの代表は英夫と常雄である。そして最終的には「わたし」が変化しないもの的重要性に気づく。

正太郎について説明する。正太郎はチームのリーダーから詐欺師というように変化し、その変化を周りの人々は落ちぶれてしまつたと、とらえている。

英夫と常雄について説明する。英夫と常雄は正太郎が変化しても、変わらず正太郎がチームのメンバーのためになることをしていると、とらえている。その理由は結果的に正太郎がしたことで、今も昔もよいことが起こっていて、昔は英夫のために日陰を付くつて、そのおかげで完投することができ、今はお金をだまし取られてから本気で仕事をできるようになったので、信じ続けることができたからである。

「わたし」はそのことを英夫との会話の中の、<sup>206</sup>頁2行目「常雄にしても、正ちゃんを憎みながら、感謝しているところもあるだろうと思うんです。」で知ることにつた。

西日をチームのメンバーで遮ることで、チームが団結していることが目に見えてわかる。日陰を作るというのは、チームの団結を意味して、ビルが西日を遮っているのは、まだチームが団結していることを意味する。つまりこの物語において西日はチー

ムの団結の有無を表している。

「ナイン」は「変化したもの」と「変化しないもの」はたくさん出ているが、この物語の中心となっている最も変化したもの

の代表は正太郎の評価であり、全く変化しないものの代表は英夫の正太郎への信頼である。

そして最終的には「わたし」が変化しないものの重要性に気づく。

「正太郎の評価」について説明する。正太郎の評価は、キヤプテンから詐欺師とい

うように変化し、その変化を周りの人々は悪いことだととらえている。

「英夫の正太郎への信頼」について説明する。英夫の正太郎への信頼は正太郎の評価が変化しても、変わらず正太郎のことを僕らのキヤブテンだと、とらえている。その理由は、中村（英夫）さんが仕事で精を出すようになつたり常雄の奥さんが別人のようになつたのは正太郎は一見悪いように見えるが、ぼくらのためにしたからである。

「わたし」はそのことを英夫との会話の中の、<sup>206</sup>頁11行目「結局は、僕らのためになることをして歩いているんだ」で知ることになった。

「ナイン」は「変化したもの」と「変化しないもの」はたくさん出ているが、この物語の中心となっている最も変化したもの

の代表は正太郎であり、全く変化しないもの

の代表は仲間が正太郎を思う気持ちである。

そして最終的には「わたし」が変化しないものの重要性に気づく。

正太郎について説明する。正太郎は新道少年野球団の主将から仲間に寸借詐欺をしてだますというように変化し、その変化を周りの人々は新宿区少年野球大会の準優勝チームの主将だつた子が、どうしてそこまで崩れてしまつたのか、またなぜだまされた仲間たちは正太郎をかばつて警察へもどこへも届けなかつたのか、と尋ねている。

仲間が正太郎を思う気持ちについて説明する。仲間が正太郎を思う気持ちは正太郎が変化しても、変わらず正太郎は結局は自分たち仲間のためになることをして歩いているんだと、とらえている。その理由は決勝戦の時に西日が当たつてぐつたりしていふことに、正太郎が前に立ち日陰を作つて助けてくれた。その気持ちは今でもどこかに残つていると仲間は信じているからである。

「わたし」はそのことを英夫との会話の中の、<sup>206</sup>頁10行目「正ちゃんは一見、悪のように見えるけど、やはり僕らのキャラクターなんですよ。」で知ることになった。

決勝戦の時西日がさしてみんなを苦しめた。そこで正太郎が日影を作つて助けた。今西日がさざなくなつたというのは、正太郎は今も仲間のために姿はないが日影という存在として、仲間のことを思い助けているということを表している。